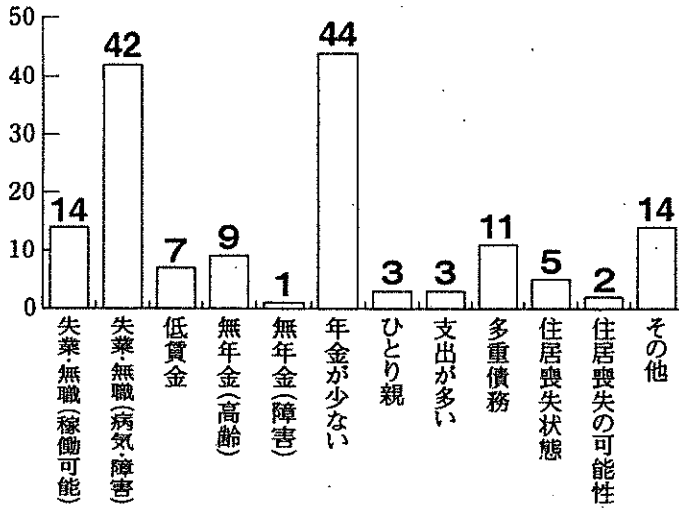


# 生活保護110番

全国青年司法書士協 しました。

議会（全青司・半田久 相談会は1月26日に  
之会長）は、先月実施 全国16都道府県で実施  
した電話相談会「生活 50代以上の単身者が庄  
保護110番」の結果 が答えました。  
をまとめ、公表しまし 相談者は男女半々で  
た。1日間で寄せられ 20代と80代と幅広く、  
た相談は296件。生 活保護制度の利用可否  
活保護制度の利用可否 約的多数でした。  
に関する相談が最も多 生活保護を利用でき  
く、貧困の深刻化を示 るかという相談が10

## 困窮事由



# 相談1日で約300件も 貧困の広がり明らかに

## 110番の相談事例

現在、路上生活をしている。糖尿病もあり。携帯電話も持っていない。受診できておらず、生活保護を申請したい（50代男性）

母と2人暮らし。母が病気になり手術のためお金がなくなってしまい、通院もできない。申請にいったが、行方不明の娘がいて、その口座に10万円あるからと申請を断られた。3回も申請を断られているので、自分でまた申請に行く自信がない（50代女性）

妻と2人暮らし。年金が月10万円ほどで生活が厳しい。軽自動車を保有しているため生活保護を受けられるのか心配。断られるのではないかと1人で役所に行くのは不安（80代男性）

自営業をしていた。仕事が減ってきたこともあり、仕事を辞め年金月4万5千円で1人暮らしをしている。アパートの家賃が月2万5千円、光熱費が月1万円。生活が苦しいので生活保護の申請をしたい（70代男性）

8件に。困窮事由は「年金が少ない」が42件で最多です。（グラフ参照）

「申請を受け付けられない人は中高年にも広がっていることがうかがい」など、行政の対応に違法の疑いがある相談もありました。45件が継続相談・同行支援となりました。

困窮の理由として、病気・障害の割合が非常に高く、また年金が不十分であることから生活保護が最後のセーフティネットとなっています。

安倍政権は2018年10月から生活保護基準を切り下げました。同政権下での相次ぐ切り下げは、健康で文化的な生活を送ることができない状態を生み出しています。昨年10月からの消費税増税も生活を悪化させており、多くの相談者が憤りを抱いています。

こうした実態を多くの人に知らせ、現状を変えていきたいと思えます。